

B

竹端材から「Bnimals」へ

人間は地球の生物量の0.01%にすぎない、すべての生物は大切な資源。ただ人類文明の発展が素早いので、かつて大量運用された素材は、今はも使わなくなった必要な時大量に植え、いらぬ時は手放しする。だからロスマテリアルという社会問題が起こったのではないか。人間は勝手に自然を改造したり、廃棄したりすることは本当に大丈夫なのか。私はその問題を意識した上で自分なら何を、どう活用するのかを考えた。

自分は昔から不思議な世界を思い描いていたことに夢中で、自分の世界観を構築する材料としてロスマテリアルを使いたい。大多喜産学プロジェクトに参加したきっかけとして、私は竹端材の利活用についての研究をはじめた。

NI

竹の可能性や未来を伝える為に、キットを作り、沢山のワークショップを行っている。竹の端材をベースにして動物、絶滅危惧種などを表現しているので、「Bnimals」で名付けた。(Bamboo + Animals) 名前はシンプルだが、この「A」から「B」に変わる、新しい価値を発見することは大事。

王啓申 (オウ・ケイシン)
武蔵野美術大学
クリエイティブリーダーシップコース

M

展示に寄せて

竹は、食用、日用品から建築素材として、私たちの暮らしに利用されてきました。そして様々な工芸品として活用され、そして竹林の風景は伝統的な日本の美しい風景を形成してきました。それがここ50年の間ですっかり生活が変わり工業製品に成り代わってしまいました。その影響で放置され繁殖し、山は荒れ、竹害と言われるほどになってしまったのです。

A

オウケイシンによるこの展示は、そのような状況を伝えるために、竹の残材を使って、竹の可能性や魅力や未来の可能性を私達に伝えようとしたデザインと言えます。美しいプロダクトをデザインするのではなく、物語のデザインをしたのです。それが「B-nimal」です。このデザインによって、私たちの生活が、しなやかに循環する社会へ移行していくことを願っています。

若杉 浩一

L

9月11日(土)
→
9月24日(金)

MUJICOギャラリー
武蔵野美術大学市ヶ谷キャンパス

BNIIMALS

S